

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「社会科の学習における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 白岡市教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

白岡市立菁莪小学校の取組

○学年・教科名 第5学年・社会

○单元名 わたしたちの生活と工業生産

○身に付けさせたい力 プランニング方略（計画的に学習を進める力）

導入

いくつかの企業のCMを観て、それぞれの企業がどんなことを大切にしている企業なのか、その企業が一番伝えたいことは何かを考える。そして児童が「架空の自動車企業の広報部長になり、新しいCMを作成する」という活動を通して、「自動車作りに携わる人々の工夫や努力について解決できるようにする」という単元を貫く学習問題を作っていく。

展開



「友達と取り組む」か
「一人で取り組む」か選
択する



「まずは一人でチャレ
ンジしてみよう」



「グループだと安心
して取り組めるよ」

複線型授業を取り入れ、自身で学習内容や学習形態を選択できるようにする。学習問題に向かって課題解決に取り組むことができるよう、毎時間の取組の目安となるチェックポイントを設定している。学習形態については、「一人で進める」「ペアやグループで行う」「教師とともに調べる」の中から選択できるようにする。調査をするにあたっての資料は、教科書の他に、教科書に記載されているQRコードの映像資料や、「NHK for School」の映像資料、各企業のHPに記載されているものを活用した。

まとめ

自動車の生産やそれに伴う工夫や努力への理解を深めたいと、循環型社会の実現への思いを、CMの絵コンテを作るという活動を通して、自分の言葉で表現するようにした。これにより、これからの自動車工業について考える力を育てるとともに、持続可能な社会の担い手として望ましい態度を養うことを目指した。完成した絵コンテは、お互いに説明し合うことで、同じ学習内容でも伝えたい事柄や方法が違うことを実感できるようにした。

事例2 白岡市立南中学校の取組

○学年・教科名 第2学年 社会科（歴史的分野）

○单元名 第4章 近世の日本 3節 産業の発達と幕府政治の動き

「思考ツールと思考の可視化で学びを深める生徒主体の授業 一田沼意次と松平定信の政策比較を通して」

○身に付けさせたい力

- ・複数の資料から情報を読み取り、事象の背景や特色を多面的・多角的に考察し、表現する力
- ・ICT を効果的に活用し、自律的に課題を追究・解決しようとする態度

導入



前時に学習した徳川吉宗の享保の改革を振り返り、その後の幕府が抱えた課題を確認した。その上で、「田沼意次と松平定信の政治にはどのような特色と問題があったのだろうか」という本時の課題を設定し、生徒に学習への見通しをもたせた。

展開

教員の働きかけ

学習用 iPad と学習支援ツール「ミライシード」を準備し、生徒が自律的に探究できる学習環境を整えた。調べた内容を学習支援ツールで提出・共有させ、考えが行き詰まった生徒が他の生徒の意見を参考にできるよう、協働的な学びを促した。

生徒の反応

各学力調査の質問調査から、多くの生徒が「考えをまとめて表現すること」に苦手意識をもっていたが、本時の活動では ICT を積極的に活用した。学習用 iPad で主体的に情報を収集し、学習支援ツール上で多様な意見を比較することで、多角的な視点から考察を深め、生徒同士で教え合いながら課題を解決する姿が見られた。

まとめ

授業の最後に、本時で学んだことや新たに生まれた疑問などを学習支援ツールに記録させた。この振り返りは、生徒自身が学びの足跡を自覚するだけでなく、教員が生徒一人一人の理解度や課題を把握し、次の授業の課題設定に繋げるための重要な資料となる。このように、ICT を活用して生徒の思考を可視化し、それを次の学びに繋げるサイクルを意図的に作ることで、生徒の主体的な学びを促すことができた。